

金ヶ崎町立幼稚園再編計画の推進方針

令和2年11月
金ヶ崎町教育委員会

1 はじめに

金ケ崎町教育委員会では、幼稚園への入園児数が減少し保育園への入園児数が増加している状況をふまえ、幼稚園児数を適正規模に保ちながら小学校就学前に身に付けるべき能力・資質を養うことができる環境を整備していくことや、家族構成の変化・保護者の就労環境の変化によって生じる教育・保育環境に対するニーズを分析し対応していくことを課題とし、平成30年10月に「金ケ崎町立幼稚園再編計画」（以下、「再編計画」。）を策定しました。

この再編計画に基づき、令和2年4月から町立認定こども園南方幼稚園を開園し、土曜日保育の実施と給食の提供を開始し、一方で、町立幼稚園の中には、園児数の減少により再編計画の基準に従い異年齢による学級を編制し、幼児教育を進めている園もあります。

教育委員会では、次世代を担う子どもたちのために、幼児教育に望ましい人数規模を確保し、望ましい幼児教育を目指すため、住民説明会を行い、町立幼稚園の再編計画を推進します。

2 目指す幼児教育

(1) 金ケ崎町における就学前教育で目指すもの

- ① 幼稚園教育要領に示されている「資質・能力の3つの柱」（知識・技能の基礎、思考力・判断力等の基礎、学びに向かう力・人間力等）を、遊びを通して養い、身に付けることができる教育
- ② 幼稚園教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を育てることができる教育
- ③ 生きる力を育み、健やかな成長を支援できる教育

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

(2) そのために

- 個人での活動
- グループでの活動
- 学級での活動
- 園全体での活動



場面に応じて、多様な経験をさせることが幼児教育に必要



幼稚園児数を適正規模に保ちながら、小学校就学前に身に付けるべき資質・能力を養うことができる環境を整備していくことが必要

3 再編計画における適正な人数規模等の基準

(1) 適正な人数規模

平成 29 年度・30 年度の有識者、保護者、町民、教育・保育関係者等を構成員とする会議、法的な基準等を踏まえ、町教育委員会として 1 学級あたり 15 名～25 名程度と設定しました。

【参考】《認定こども園・保育所》

職員一人に対し 3 歳児 20 名まで、4・5 歳児 30 名まで
《幼稚園》 1 学級の幼児数は 35 人以下

(2) 異年齢学級の編制基準

3 歳児と 4 歳児の合計が 8 人以下、または 4 歳児と 5 歳児の合計が 16 人以下となった場合に異年齢学級を編制することとしています。

(3) 統廃合の基準

出生数等の状況を踏まえて園児数の増加の見込みがない場合、または恒常的に異年齢学級が解消されない見込みの場合、保護者や地域との協議を経て統廃合を決定・実施することとしています。

(4) 再編基準に基づく異年齢学級編制の状況

現状では、永岡幼稚園が平成 29 年度から 4 年継続して異年齢学級を編制しています。また、三ヶ尻幼稚園は令和 2 年度から 1 回目の異年齢学級を編制しています。

①永岡幼稚園

※太枠は異年齢学級編制の状況

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2
3 歳	16	5	12	9	6	8	4	2	8	2
4 歳	8	16	5	14	9	7	8	4	3	9
5 歳	7	9	16	5	14	8	7	9	4	3
合計	31	30	33	28	29	23	19	15	15	14

- 永岡幼稚園は、再編計画策定後 2 回目の異年齢編制となっています。

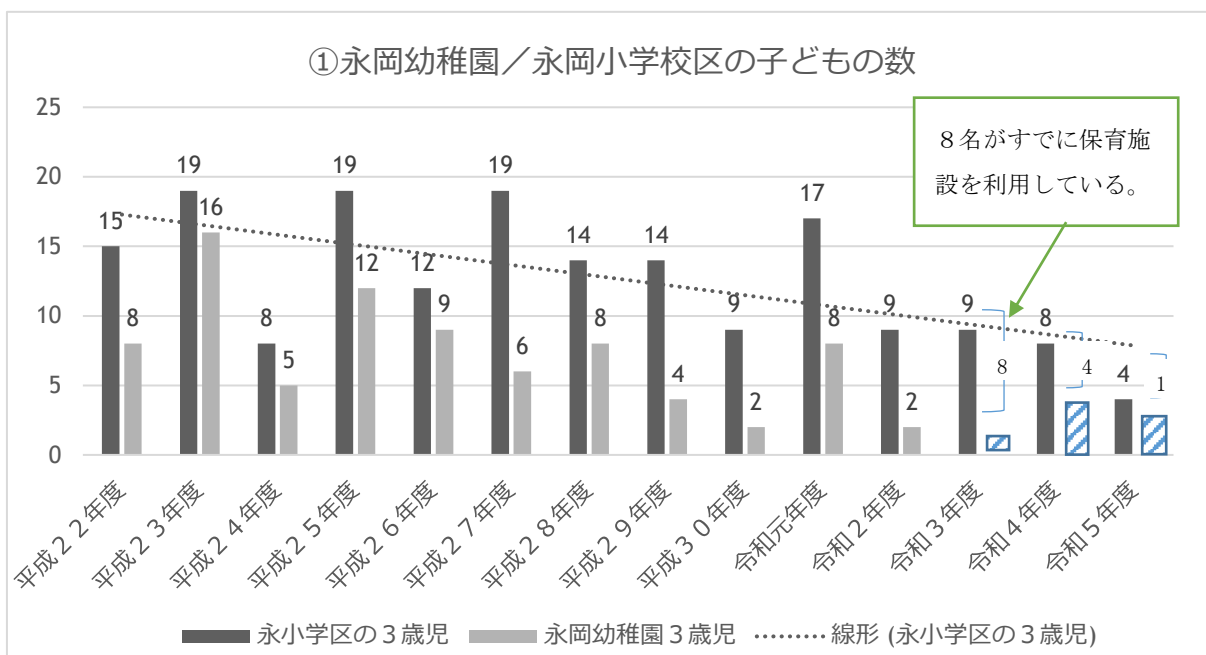
②三ヶ尻幼稚園

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
3 歳	5	19	10	4	10	5	11	4	5	7
4 歳	15	7	18	12	3	11	5	12	4	6
5 歳	14	14	6	18	12	3	12	6	12	5
合計	34	40	34	34	25	19	28	22	21	18

- 三ヶ尻幼稚園は、再編計画策定後 1 回目の異年齢編制となっています。
- 園児数に異動がない場合、令和 3 年度は 5 歳児 6 名 + 4 歳児 7 名 = 合計 13 名となり、4・5 歳児で異年齢学級を編制することになります。

4 再編計画に基づく検討

(1) 異年齢学級が続いている永岡幼稚園の園児数の見通し



すでに保育施設を利用している子どもが幼稚園に転園する可能性は少ないことから、学区内の子どもの数と保育施設を利用している子どもの数の差を幼稚園入園見込み人数とすると、永岡幼稚園は、令和3年度が1名、令和4年度が4名、令和5年度3名の入園見込み人数となります。 ※グラフの斜線部分

なお、令和4年度は現在の1歳児、令和5年度は現在の0歳児の保育施設利用状況であることから、更に保育施設を利用する子どもが増えることも想定されます。

4歳児2名が令和2年度末までに転出見込みのため、令和3年度は7名となる

(2) 永岡幼稚園における今後の異年齢学級編制の見通し

年度	入園見込数			3歳児	4歳児	5歳児	園児合計
令和2年度	0歳児	1歳児	2歳児	2	9	3	14
令和3年度	入園見込数		3歳児	4歳児	5歳児	小1	園児合計
永岡幼稚園	1歳児	2歳児	1	2	7	3	10
令和4年度	入園見込数	卒園			小1	小2	園児合計
永岡幼稚園	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	7	3	7

【検討結果】永岡幼稚園（永岡小学校区）では、出生数が減少し、かつ、恒常的に異年齢学級が解消されない見込となっていることから、住民への説明が必要な時期に来ている。

5 再編計画の推進に係る方針

(1) 永岡幼稚園の閉園時期等について

【考え方】「就学前の教育・保育環境の確保」（幼稚園児数を適正規模に保つ必要性）と「在園児への配慮」（転園をする園児への影響）のバランスを考慮する。

**在籍児の人数が多い年齢（＝現4歳児）が卒園する
令和3年度末（2022年3月末）に永岡幼稚園を閉園する。**

(2) 永岡幼稚園の園児募集について

【考え方】園児への配慮として閉園によって転園する園児をできるだけ少なくする必要性がある一方で、兄弟同時入園等に配慮する必要もある。

**令和3年度末の閉園後の転園に保護者同意がある場合は、
令和3年度の入園を受け入れる。**

(3) 永岡幼稚園の閉園後について

- 認定こども園南方幼稚園との統合とする。
- 永岡地区を認定こども園南方幼稚園への通園バスの運行対象エリアとし、乗車基準に該当する場合は乗車対象とする。
- 永岡幼稚園の施設を、永岡学童保育所及び地域住民の交流の場等として有効活用を検討する。

(4) 統合先との交流事業

- 転園を要する園児の転園によるストレスを軽減するため、統合先の認定こども園南方幼稚園との交流を実施し、スムーズな転園をサポートする。

6 経 過

(1) 町民、保護者に対する説明会

実施日	内 容	備 考
令和2年9月4日	金ケ崎町立幼稚園再編計画の推進に係る方針（素案）	永岡幼稚園
令和2年9月14日	〃	永岡地区生涯教育センター
令和2年9月29日	金ケ崎町立幼稚園再編計画の推進に係る方針（案）	永岡幼稚園
令和2年10月1日	〃	永岡地区生涯教育センター
令和2年10月2日	〃	中央生涯教育センター

(2) 議員全員協議会での説明

実施日	内 容
令和2年8月31日	金ケ崎町立幼稚園再編計画の推進について
令和2年11月2日	金ケ崎町立幼稚園再編計画の推進に係る方針（案）

(3) 方針決定に係る会議

実施日	会議名	内 容
令和2年8月25日	金ケ崎町教育委員会会議定例会	金ケ崎町立幼稚園再編計画の推進について
令和2年9月25日	金ケ崎町教育委員会会議定例会	金ケ崎町立幼稚園再編計画の推進方針（案）について
令和2年11月4日	金ケ崎町教育委員会会議臨時会	金ケ崎町立幼稚園再編計画の推進方針
令和2年11月4日	金ケ崎町総合教育会議	金ケ崎町立幼稚園再編計画の推進方針